



オオヒシクイの飛来＝稲敷市の稲波干拓地  
(稲敷雁の郷友の会・小玉和夫さん提供)

今年も「オオヒシクイ」が越冬のために霞ヶ浦の南「稲波干拓地」に渡ってきた。「稲敷雁の郷友の会」の約60人が観察小屋を拠点に保護に当たっている。すでに約100羽が飛来しているという。オオヒシクイは両羽を広げると160～200センチほどの大型の渡り鳥で、国の天然記念物に指定されている。ロシアのカムチャツカ半島で成鳥になり、冬が近づくと北海道に、さらに南下してこの干拓地に飛来する。

2016.11.13

「気象コンパス」主宰

古川 武彦



### オオヒシクイの飛来

オオヒシクイはガンの仲間、時速50キロ以上で夜間も飛ぶと聞いた。この時期偏西風が強まり、上空千メートルでは、しばしば風が秒速30メートル（時速約100キロ）程度になる。しかも偏西風は南北に蛇行するため、風向きも場所によって西寄りから北へと幅が広い。彼らが南に飛ぼうと思っても偏西風で流されるはずだから、常に舵（かじ）を取る必要がある。どのように方角や地形を認識して、同じ場所にやって来るのだろうか。

同会の会員によれば、やって来るのは代々すべて一族。他へは渡らず、毎年の旅路でこの地に到る知恵を学ぶという。彼らには偏西風を予想する能力はないはずだが、人も及ばない視力と記憶力、知恵を備えているようだ。

9日、関東地方に「木枯らし1号」が吹いた。早めに冬物の準備を。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



紅葉が見ごろとの情報を得て、常陸太田市の竜神峡を訪れた。山肌を染める色とりどりの紅葉と点在する常緑樹の緑、竜神川をせき止めたダム湖の上空100メートルに架かる全長375メートルの青い大つり橋とのコントラストが印象的。バンジーjumpに挑む人がつり橋から飛び降りるたびに見物客の歓声が上がる。4秒ほどで約80メートルを一気に落下する。

秋が深まると人々は紅葉を求めて、行く秋を

2016.11.20

「気象コンパス」主宰

古川 武彦



### 紅葉前線

惜しむ。紅葉の見頃を意味する紅葉前線は、11月中旬に北海道を出発して南下し、関東地方には11月中・下旬に訪れる。

カエデの葉は、気温が一定以下になると老化が進み、葉茎の元に膜ができて水分や栄養の通路が遮断され、その後は「アントシアニン」という色素の働きで紅葉する。

紅葉の予想は一般に9月の平均気温をベースに予測式を導いて行われている。気象庁は紅葉や桜の開花などの観測は従来通り行っているが、1965年以来行ってきた関東地方のみを対象とした紅葉予想の発表を2008年に取りやめ、民間に委ねた。桜の開花予想も10年に終了した。

近年、秋の気温低下の遅れで紅葉の時期が遅れる、あるいは桜の開花時期が乱されていると聞く。地球温暖化の影響が気になる。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)